

- 平成17年 総合計画「川崎再生フロンティアプラン」第I期実行計画  
次期連立検討区間としてJR南武線(尻手駅～武蔵小杉駅間)を位置付け
- 平成19年 「JR南武線未高架地域の連続立体交差化に関する請願」(署名約55,000人)  
川崎市議会にて全会一致で採択
- 平成20年 「川崎南部地域交通基盤あり方検討委員会」からの提言を受理  
「尻手駅から武蔵小杉駅までの連続立体交差化を推進するのが妥当である」  
JR東日本と連続立体交差化に向けた勉強会を開始
- 平成23年 横浜市と川崎市で南武線及び横浜市営地下鉄3号線に係る計画・調査に関する覚書を交換  
「川崎市総合都市交通計画」と「横浜市次世代交通計画」の策定に向けた連携協力を確認
- 平成25年 「川崎市総合都市交通計画」策定  
JR南武線連続立体交差事業を短中期(10年内)に着手を目指す事業(B事業)に位置付け
- 平成26年 事業化に向けて事業調査(地質調査、測量)に着手
- 平成28年 社会資本総合整備計画に位置付け  
地域が主体となった地域勉強会が発足(現在までに8回開催)  
地元説明会を幸区、中原区で各1回実施  
有識者意見聴取
- 平成29年 オープンハウス型説明会を4日間開催  
構造形式を仮線高架工法に決定  
川崎市総合計画 第2期実施計画において  
令和2年度に都市計画決定を行うことを定める
- 令和3年1月 本事業を含む大規模投資的事業の見直しに伴い、令和2年度の  
都市計画決定を見送り、事業費の縮減と事業期間の短縮に向けた  
検討を行うことを決定



地域勉強会の様子



地元説明会(延べ約500人参加)

令和4年3月 約200億円の事業費の事業費縮減と約5年の事業期間短縮が可能な別線高架に工法変更を行い、令和5年度末までに都市計画決定を行うことを総合計画第3期実施計画に位置づける